

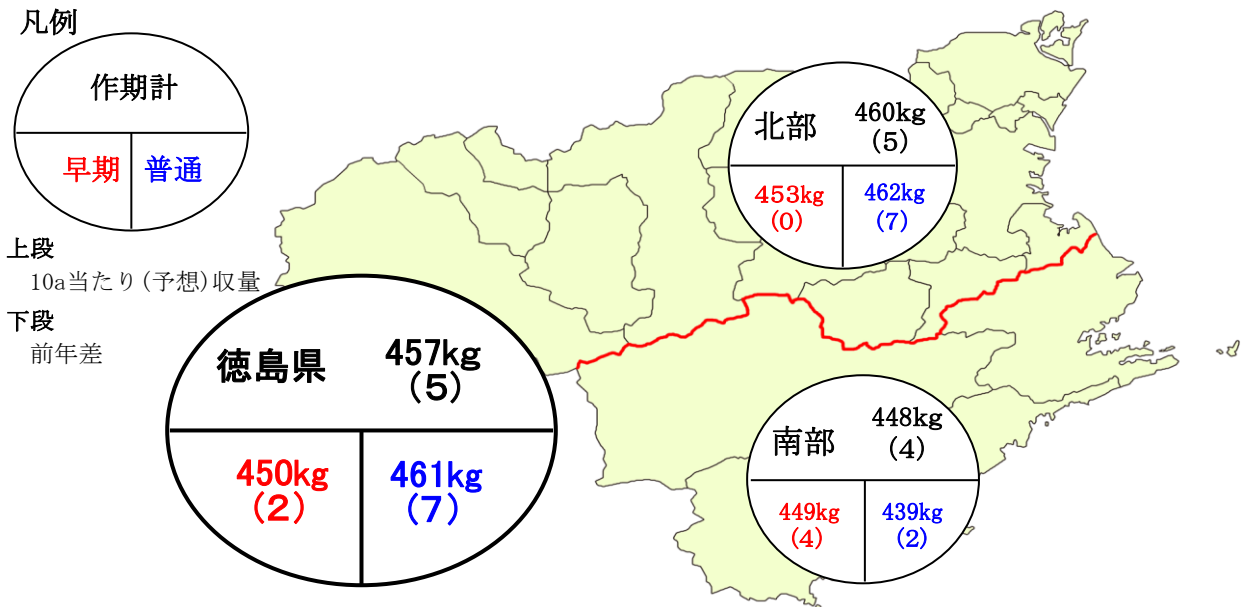
## 平成27年産水稻の作付面積及び予想収穫量 (10月15日現在 徳島県)

－ 10 a 当たり予想収量は457kgの見込み －

### 【 調査結果の概要 】

- 平成27年産水稻の作付面積（子実用）は1万1,900haで、うち主食用作付見込面積は1万1,700haが見込まれます。
- 10月15日現在における水稻の作柄は、6月3日の梅雨入り以降、総じて日照時間が少なかった影響を受け、全もみ数がやや少なくなったことから、県平均の10 a 当たり予想収量はやや不良の457kgが見込まれます。これを作期別にみると、ともにやや不良で早期栽培は450kg、普通栽培の461kgが見込まれます。
- 以上の結果、予想収穫量（子実用）は5万4,400 tが見込まれます。また、主食用作付見込面積に10 a 当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は5万3,500 tが見込まれます。

図 地帯別作期別10 a 当たり予想収量（10月15日現在）



- 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付見込面積を除いた面積（見込み）です。
- 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり（予想）収量の比率です。  
 なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（四国は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出しています。
- この作柄は、その後の気象が平年並みに推移するものとして予測したものです。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。
- 本調査の目的、調査対象、北部、南部の範囲などは「調査の概要」（P10）に記載しています。

## 【 解 説 】

### 1 水稲作付面積（子実用）

平成27年産水稲の作付面積（子実用）は1万1,900haで、飼料用米への転換等により前年に比べ1,300ha減少しました。

なお、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付見込面積を除いた主食用作付見込面積は1万1,700haで、前年に比べ1,100ha減少が見込まれます。

### 2 作柄

#### （1）早期栽培

田植期は、育苗期間の天候に恵まれ順調に生育したことから、最盛期は、4月17日となり平年に比べ1日早くなりました。出穂期は、梅雨入りまでの間、高温に推移したことにより、最盛期は7月14日となり平年に比べ4日程度早くなりました。

穂数は、梅雨入り以降、気温は平年並みに推移したものの、日照不足の影響により平年に比べ「やや少ない」となりました。1穂当たりもみ数は、「平年並み」を確保したものの、梅雨明けが6日遅かったことから、全もみ数は、有効穂数が減少し「やや少ない」となりました。

登熟は、台風第11号の強風による穂ずれ、梅雨明けの遅れが懸念されていたが、梅雨明け以降は天候に恵まれたことから「平年並み」となりました。

以上のことから、10a当たり収量は450kgとなりました。

#### （2）普通栽培

田植期は、育苗期間から高温・多照で推移したことから、苗の生育が順調に推移し最盛期は5月23日となり、平年に比べ1日程度遅くなりました。出穂期は梅雨全期間が低温・日照で推移したものの、梅雨明け以降は天候に恵まれ最盛期は8月1日となりました。

穂数は「平年並み」であったものの、8月中旬以降は台風第15号及び日照不足の影響により9月中旬まで天候不順が続き、1穂当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、全もみ数も「やや少ない」となりました。

登熟については、9月中旬以降からは天候に恵まれたため「平年並み」に推移しています。

以上のことから、10a当たり予想収量は461kgが見込まれます。

### 3 予想収穫量（主食用）

主食用作付見込面積に10a当たり予想収量（1.7mmのふるい目幅）を乗じた予想収穫量（主食用）は5万3,500tが見込まれます。

表1 平成27年産水稲の作付面積及び9月15日現在の10a当たり（予想）収量（作況指数）

区 分	作付面積(子実用)			10a当 たり予 想収量 ②	(参考)農家等が使用しているふるい目幅で選別			参 考	
	実 数 ①	前年産との比較			10a当 たり予 想収量 ③	10a当 たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤=③/④	主食用作 付見込 面 積 ⑥	予 想 収 穫 量 (主食用) ⑦=③×⑥
		対 差	対 比						
徳 島 県	11,900	△ 1,300	90	457	453	469	97	11,700	53,500
作 期 別									
早期栽培	4,580	△ 620	88	450	447	459	97	...	...
普通栽培	7,340	△ 680	92	461	456	475	96	...	...
作柄表示地帯別									
北 部	8,560	△ 780	92	460	456	473	96	...	...
南 部	3,360	△ 520	89	448	445	458	97	...	...

- 注：1 ②10a当たり収量及び⑥予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の数量です。  
 2 農家等が使用しているふるい目幅で選別された③④⑤は、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（四国は1.75mm）で選別された玄米を基に算出した数値です。  
 3 主食用作付見込面積及び予想収穫量（主食用）の内訳を「…」としているのは、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付見込面積を作柄表示地帯別及び作期別に把握していないためです。  
 4 作柄表示地帯別及び作期別の作付面積の積み上げ値と徳島県計が合致しない場合があるのは、四捨五入（P12参照）のためです。  
 5 表中の「△」は、減少を表しています。

表2 作柄概況

区 分	平 年 比 較			
	穂 数 の 多 少	1 穂 当 たり も み 数 の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否
早 期 栽 培	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
北 部	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み
南 部	平年並み	平年並み	やや少ない	平年並み
普 通 栽 培	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み
北 部	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み
南 部	平年並み	やや少ない	やや少ない	平年並み

注： 本表の「穂数」「1穂当たりもみ数」「全もみ数」の多少及び登熟の良否に用いた表示区分は、「統計表の見方」(P12)に記載されています。

区 分	刈 取 期					刈 取 済 面 積 割 合	対 平 年 差
	始 期	最 盛 期	終 期	最 盛 期 の 比 較			
				対 平 年	対 前 年	%	ポイント
早 期 栽 培	月 日	月 日	月 日				
北 部	8.11	8.22	9.3	3日早	8日早	100	0
南 部	8.16	8.25	9.5	3日早	8日早	100	0
普 通 栽 培	8.10	8.20	8.31	3日早	8日早	100	0
北 部	8.24	9.12	10.5	1日遅	2日早	99	2
南 部	8.24	9.12	10.5	1日遅	2日早	100	1
	8.24	9.10	9.27	1日遅	2日早	99	2

注： 出穂期の始期とは出穂済み面積割合が5%、最盛期は同50%、終期は同95%にそれぞれ達した期日です。

◎ 早期栽培累年データ

区 分	作 付 面 積 (子 実 用)	10 a 当 たり 収 量	10 a 当 たり 平 年 収 量	作 況 指 数	収 穫 量 (子 実 用)
平成18年産	ha	kg	kg		t
	5,290	440	463	95	23,300
19	5,260	445	463	96	23,400
20	5,350	488	463	105	26,100
21	5,330	458	463	99	24,400
22	5,190	453	463	98	23,500
23	5,080	449	463	97	22,800
24	5,100	464	463	100	23,700
25	5,290	468	463	101	24,800
26	5,200	448	463	97	23,300
27	4,580	450	463	97	20,600

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積をいいます。（以下の各表において同じ。）

2 「10a当たり収量」、「10a当たり平年収量」及び「収穫量（子実用）」は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米重量です。

2 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。

なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（四国は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出しています。（以下の各表において同じ。）

◎ 普通栽培累年データ

区 分	作 付 面 積 (子 実 用)	10 a 当 たり 収 量	10 a 当 たり 平 年 収 量	作 況 指 数	収 穫 量 (子 実 用)
平成18年産	ha	kg	kg		t
	8,780	467	480	97	41,000
19	8,710	493	480	103	42,900
20	8,520	514	480	107	43,800
21	8,410	479	480	100	40,300
22	8,290	482	480	100	40,000
23	8,140	472	480	98	38,400
24	8,120	485	480	101	39,400
25	8,130	499	480	104	40,600
26	8,020	454	480	95	36,400
27 (見込み)	7,340	461	480	96	33,800

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている「米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針」及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産数量目標の策定及び達成状況の検証のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

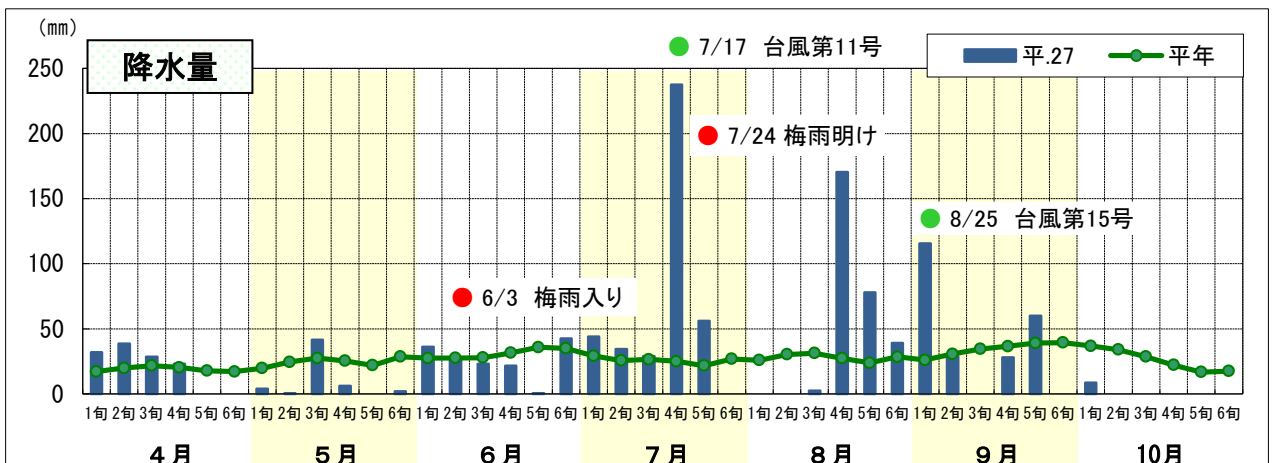
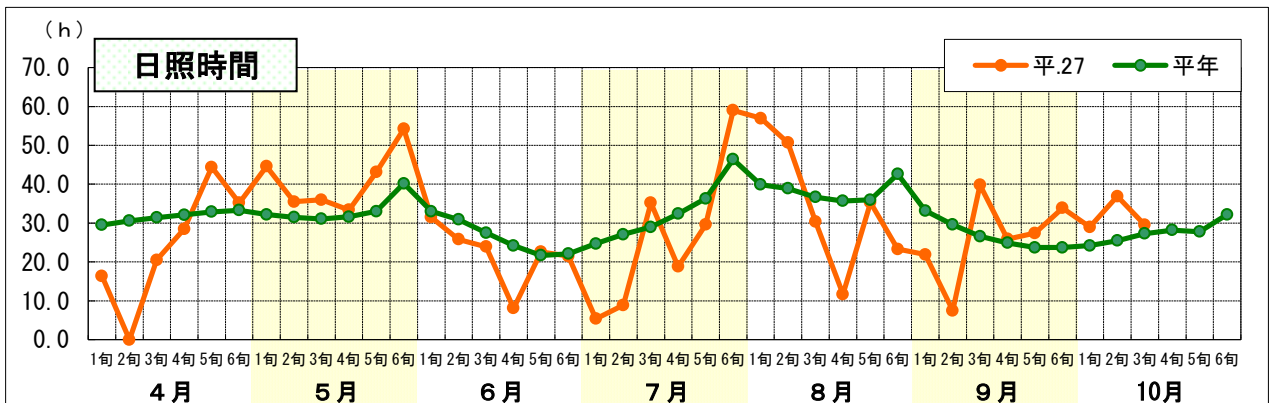
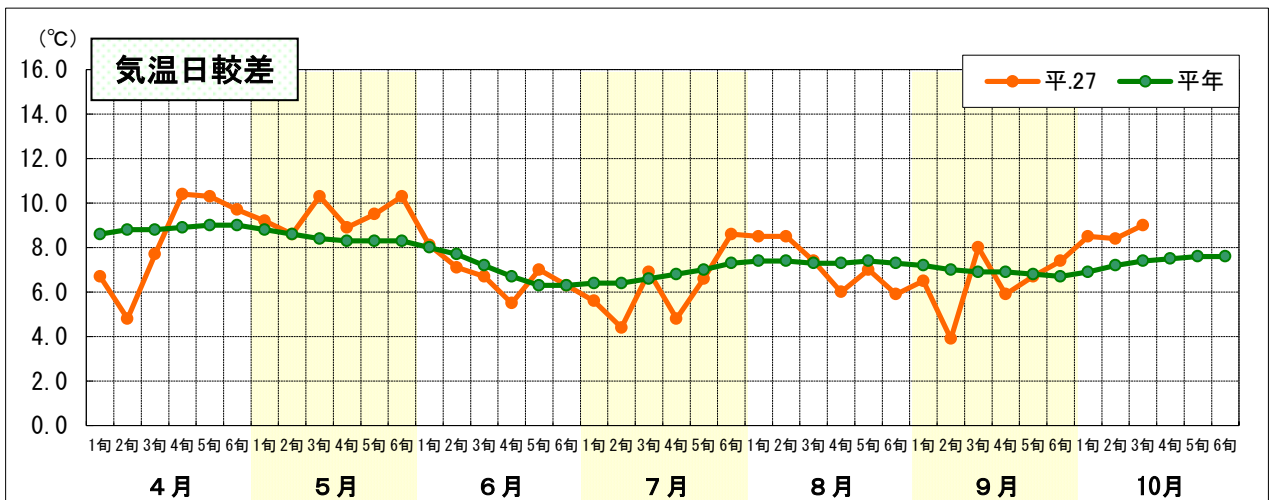
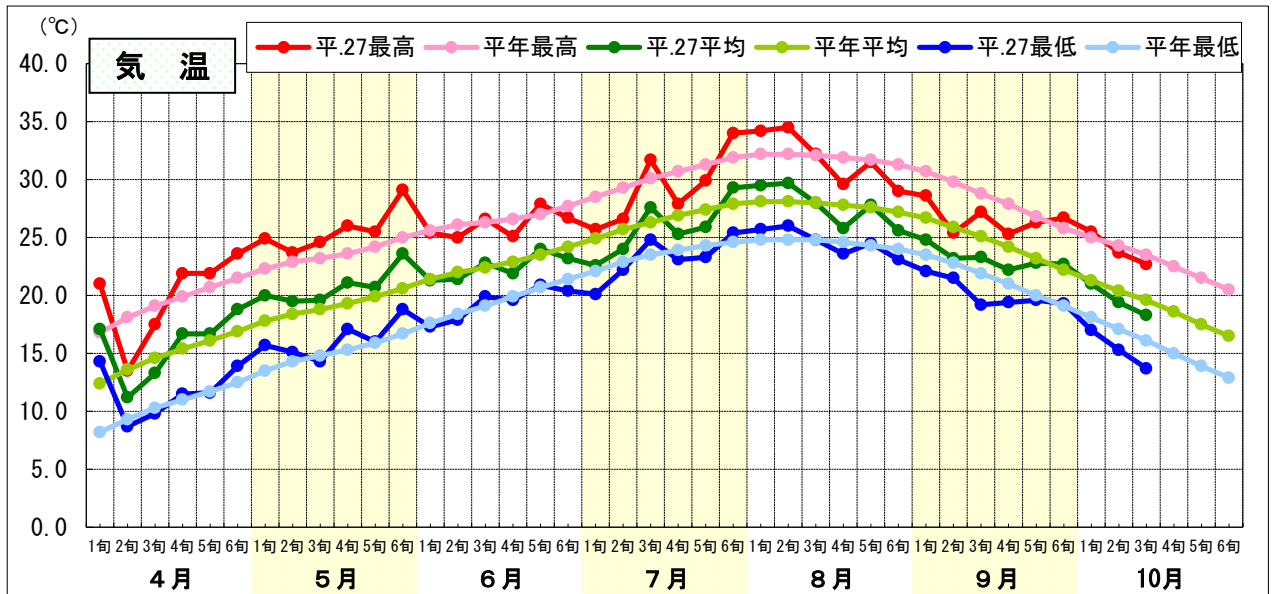
◎ 徳島県計の水稻累年データ

区 分	作付面積 (子実用) ha	10a当たり 収 量 kg	10a当たり 平年収量 kg	作 況 指 数	収 穫 量 (子実用) t	( 参 考 )	
						主 食 用 作 付 面 積 ha	収 穫 量 (主食用) t
昭和59年産	17,700	457	414	110	80,900	…	…
60	18,000	464	418	111	83,500	…	…
61	17,700	448	424	106	79,300	…	…
62	16,700	443	427	104	74,000	…	…
63	16,400	447	432	103	73,300	…	…
平成元	16,400	441	436	101	72,300	…	…
2	16,400	434	441	98	71,200	…	…
3	16,300	436	445	98	71,100	…	…
4	16,700	425	445	96	71,000	…	…
5	16,800	388	445	87	65,200	…	…
6	17,200	504	445	113	86,700	…	…
7	16,800	484	445	109	81,300	…	…
8	16,200	472	447	106	76,500	…	…
9	15,800	449	453	99	70,900	…	…
10	15,300	452	455	99	69,200	…	…
11	15,100	464	462	100	70,100	…	…
12	14,900	476	468	102	70,900	…	…
13	14,500	471	468	101	68,300	…	…
14	14,300	476	472	101	68,100	…	…
15	14,100	453	472	96	63,900	…	…
16	14,100	463	472	98	65,300	…	…
17	14,100	487	474	103	68,700	…	…
18	14,100	457	474	96	64,400	…	…
19	14,000	475	474	100	66,500	…	…
20	13,900	504	474	106	70,100	13,900	70,100
21	13,700	471	474	99	64,500	13,700	64,500
22	13,500	471	474	99	63,600	13,500	63,600
23	13,200	463	474	98	61,100	13,200	61,100
24	13,200	477	474	101	63,000	13,100	62,500
25	13,400	487	474	103	65,300	13,100	63,800
26	13,200	452	474	95	59,700	12,800	57,900
<b>27 (見込み)</b>	<b>11,900</b>	<b>457</b>	<b>474</b>	<b>97</b>	<b>54,400</b>	<b>11,700</b>	<b>53,500</b>

注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。  
 2 主食用作付見込面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積（見込み）です（以下同じ。）。  
 3 「…」は、事実不詳又は調査を欠くことを示しています。  
 4 「作況指数」とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり予想収量の比率です。  
 なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（四国は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出しています。

【平成27年 稲作期間の気象経過】

資料：気象庁  
観測地点：徳島





## 【参考1】

### 水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査における収量基準は、子実用については飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています（P8【参考2】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりです。

#### 1 徳島県計のふるい目幅別重量分布状況

単位：%

区 分	計	ふ る い 目 幅					
		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm 以上
平成22年産	100.0	0.8	1.2	1.7	3.3	10.7	82.3
23	100.0	1.2	2.0	2.5	3.2	15.3	75.8
24	100.0	0.9	1.4	1.9	2.5	11.2	82.1
25	100.0	1.2	1.7	2.6	2.8	14.5	77.2
26	100.0	1.6	2.1	3.5	3.6	20.0	69.2
27（概数値）	100.0	0.9	1.5	2.5	2.5	14.5	78.1
平均値	100.0	1.1	1.7	2.4	3.1	14.3	77.4
対平均差	0.0	△ 0.2	△ 0.2	0.1	△ 0.6	0.2	0.7

注：1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。（以下各表において同じ。）

2 未熟粒、被害粒等の混入が多く農産物規格規定に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。（以下各表において同じ。）

#### 2 徳島県計のふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

区 分		1.70mm 選 別	1.75mm 選 別	1.80mm 選 別	1.85mm 選 別	1.90mm 選 別	2.00mm 選 別
平成22年産	10a 当たり収量 (kg)	471	467	462	454	438	388
23	10a 当たり収量 (kg)	463	457	448	437	422	351
24	10a 当たり収量 (kg)	477	473	466	457	445	392
	収 穫 量 (t)	63,000	62,400	61,600	60,400	58,800	51,700
25	10a 当たり収量 (kg)	487	481	473	460	447	376
	収 穫 量 (t)	65,300	64,500	63,400	61,700	59,900	50,400
26	10a 当たり収量 (kg)	452	445	435	419	403	313
	収 穫 量 (t)	59,700	58,700	57,500	55,400	53,300	41,300
27（概数値）	10a 当たり収量 (kg)	457	453	446	435	423	357
	収 穫 量 (t)	54,400	53,900	53,100	51,700	50,400	42,500

注：1 ふるい目幅別の10a 当たり収量とは、10a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。（以下各表において同じ。）

3 ふるい目幅別の収穫量（子実用）については、平成24年産より集計・公表を行っています。

### 3 早期栽培のふるい目幅別重量分布状況

単位：％

区 分	計	ふるい目幅					
		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
平成22年産	100.0	0.9	1.2	1.7	2.0	10.3	83.9
23	100.0	1.2	1.6	2.2	3.1	15.4	76.5
24	100.0	0.8	1.3	1.8	2.4	11.7	82.0
25	100.0	1.0	1.2	2.0	2.2	12.4	81.2
26	100.0	1.7	2.3	4.0	4.2	23.7	64.1
27	100.0	0.7	1.0	1.8	1.9	12.0	82.6
平均値	100.0	1.1	1.5	2.3	2.8	14.7	77.6
対平均差	(ポイント)	△ 0.4	△ 0.5	△ 0.5	△ 0.9	△ 2.7	5.0

### 4 早期栽培のふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量

年 産		1.70mm 選別	1.75mm 選別	1.80mm 選別	1.85mm 選別	1.90mm 選別	2.00mm 選別
平成22年産	10a 当たり収量 (kg)	453	449	443	436	427	380
23	10a 当たり収量 (kg)	449	444	436	427	413	343
24	10a 当たり収量 (kg)	464	460	454	446	435	380
	収 穫 量 (t)	23,700	23,500	23,200	22,800	22,200	19,400
25	10a 当たり収量 (kg)	468	463	458	448	438	380
	収 穫 量 (t)	24,800	24,600	24,300	23,800	23,200	20,100
26	10a 当たり収量 (kg)	448	440	430	412	393	287
	収 穫 量 (t)	23,300	22,900	22,400	21,400	20,500	14,900
27	10a 当たり収量 (kg)	450	447	442	434	426	372
	収 穫 量 (t)	20,600	20,500	20,300	19,900	19,500	17,000

### 5 普通栽培のふるい目幅別重量分布状況

単位：％

区 分	計	ふるい目幅					
		1.70mm	1.75mm	1.80mm	1.85mm	1.90mm	2.00mm以上
平成22年産	100.0	0.7	1.2	1.7	3.8	10.9	81.7
23	100.0	1.2	2.0	2.7	3.3	15.2	75.6
24	100.0	0.9	1.4	1.9	2.6	10.9	82.3
25	100.0	1.4	2.0	3.0	3.2	15.8	74.6
26	100.0	1.5	2.0	3.2	3.2	17.7	72.4
27 (概数値)	100.0	1.1	1.8	3.0	2.9	16.1	75.1
平均値	100.0	1.1	1.7	2.5	3.2	14.1	77.4
対平均差	(ポイント)	0.0	0.1	0.5	△ 0.3	2.0	△ 2.3

### 6 普通栽培のふるい目幅別収穫量（子実用）及び10a当たり収量

年 産		1.70mm 選別	1.75mm 選別	1.80mm 選別	1.85mm 選別	1.90mm 選別	2.00mm 選別
平成22年産	10a 当たり収量 (kg)	482	479	473	465	446	394
23	10a 当たり収量 (kg)	472	466	457	444	429	357
24	10a 当たり収量 (kg)	485	481	474	465	452	399
	収 穫 量 (t)	39,400	39,000	38,500	37,700	36,700	32,400
25	10a 当たり収量 (kg)	499	492	482	467	451	372
	収 穫 量 (t)	40,600	40,000	39,200	38,000	36,700	30,300
26	10a 当たり収量 (kg)	454	447	438	424	409	329
	収 穫 量 (t)	36,400	35,900	35,100	34,000	32,800	26,400
27 (概数値)	10a 当たり収量 (kg)	461	456	448	434	420	346
	収 穫 量 (t)	33,800	33,400	32,800	31,800	30,800	25,400

### 7 水稻作況標本筆等の10a 当たり収量玄米重の分布状況

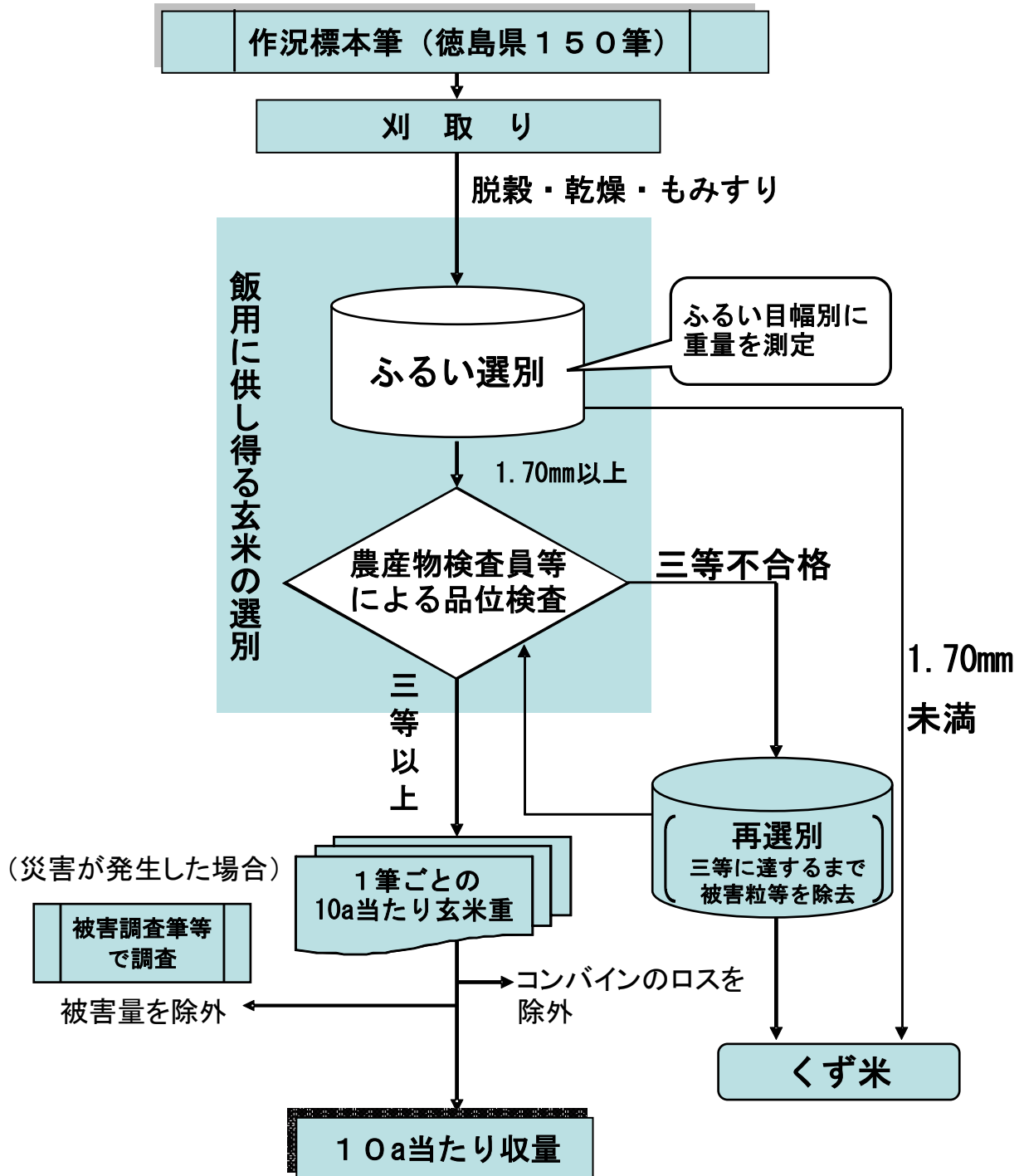
単位：％

	計	100kg未満	100～ 200	200～ 300	300～ 400	400～ 500	500～ 600	600～ 700	700kg 以上
筆数割合	100.0	—	—	4.0	10.7	52.6	30.0	2.7	—
前年値	100.0	—	0.7	3.3	10.7	54.6	30.0	0.7	—
対前年差	—	—	△ 0.7	0.7	0.0	△ 2.0	0.0	2.0	—

注： 10a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

【 参 考 2 】 収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（P9【参考3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



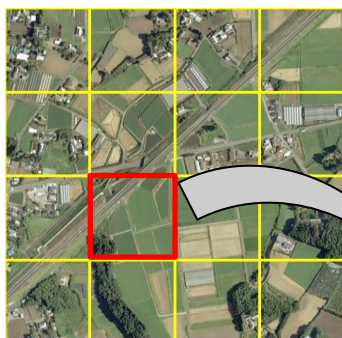


【 参 考 3 】

ふで  
作況標本筆とは

ふで  
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼びます。）は、徳島県の水稲の10a当たり収量が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように選定（徳島県は150筆）している。

徳島県内の全ての土地  
(母集団)



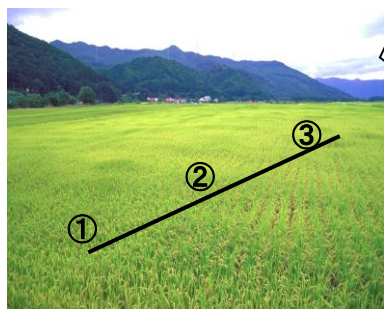
- ① 徳島県の全ての土地を200m四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区  
(200m四方の土地)



- ② 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆  
(徳島県は150筆)



- ③ 各作況標本筆の対角線上の3カ所（①、②、③）を実測調査箇所として、サンプル採取（坪刈り）を行っている。

## 【 調査の概要 】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の中の水稲作付面積調査及び水稲予想収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況・予想収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

### 2 調査の区分

北部：徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、阿波市、美馬市、三好市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、石井町、神山町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町

南部：阿南市、那賀町、牟岐町、美波町、海陽町



### 3 調査対象数

#### (1) 作付面積調査

標本単位区：507単位区 巡回・見積り：24市町村

#### (2) 予想収穫量調査

作況標本筆：150筆 作況基準筆：6筆 巡回・見積り：24市町村

### 4 調査事項

水稲の作付面積、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況及び耕種状況

### 5 調査期日

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 予想収穫量調査：10月15日現在

## 6 調査方法

### (1) 作付面積調査

調査は、職員又は統計調査員による、標本単位区に対する実測調査並びに巡回・見積りにより行いました。

### (2) 予想収穫量調査

調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査並びに作況基準筆調査結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

ふるい目幅別の調査は、刈取り・もみすりした粗玄米を縦目ふるいにより、ふるい目幅別に選別し重量を計測することにより行いました。

## 7 集計の方法

### (1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめています。

### (2) 予想収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

ふるい目幅別については、ふるい目幅別の重量の計測結果を集計し取りまとめています。

## 8 用語の解説

### (1) 青刈り

子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WCS用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米、バイオ燃料用米を指します。

### (2) 早期栽培

台風の影響を受けやすい時期に出穂期（しゅっすいき）となることを回避する等から、おおむね8月中旬頃までに収穫する目的で作付けする栽培方法です。

### (3) 穂数の多少

1 m<sup>2</sup>あたりに出穂した全ての穂の数であり、収量決定に当たって重要な要素の一つです。平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

### (4) 1穂あたりもみ数の多少

1穂についている全てのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

### (5) 全もみ数の多少

1 m<sup>2</sup>あたりの全てのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

### (6) 登熟の良否

開花・受精した後、実が肥大し熟れていくことです。生育条件や気象条件、病害虫などの影響を受けます。平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。

### (7) 平年比較

過年次の作況標本筆結果から作成した1 m<sup>2</sup>あたり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較です。

(8) 作況指数

10 a 当たり 10 a 当たり 予想収量の比率です。

なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、当該全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅（四国は1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出しています。

(9) 10 a 当たり 10 a 当たり 収量

水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいいます。

9 利用上の注意

(1) 本調査（10月15日現在）は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行いましたが、一部収穫を終えていない地域もあり、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

(2) 表中で用いた表示区分は、過年次の作況標本筆結果から作成した各指標の平年値に対する比率を、次のとおりの区分で表しています。

多 少 ( 良 否 )	少 ない ( 不 良 )	やや少ない ( やや不良 )	平 年 並 み	やや多い ( やや良 )	多 い ( 良 )
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

(3) 表中の統計数値については、次の方法によって四捨五入しています。

原 数		5 桁 ( 1 万 )	4 桁 ( 1, 000 )	3 桁以下 ( 100 )
四 捨 五 入 す る 桁 数 ( 下 から )		2 桁	1 桁	四 捨 五 入 し ない
例	四 捨 五 入 す る 前 ( 原 数 )	12, 345	1, 234	123
	四 捨 五 入 し た 後 ( 統 計 数 値 )	12, 300	1, 230	123

今後の発表予定

◎ 12月 平成27年産 水稻の収穫量（徳島県）

この農林水産統計は、中国四国農政局ホームページでご覧いただけます。  
<http://www.maff.go.jp/chushi/nousei/tokushima/>

お問合せ先

中国四国農政局徳島支局

統計チーム 生産流通消費統計担当

Tel : 088-625-6990 (内線351) Fax : 088-654-1383

